

環境問題

閉じる

科目名	環境問題		コード		B110100			
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期			
講義	選択	2	1～4年		前期			
担当者名	安溪 遊地, 他7名							
授業概要 「環境問題は専門家にまかせておくしかない地球レベルの問題だ」という「常識」を根本から問い直し、身近な環境問題を足元から解決するための知恵と経験にまなぶ。身の回りで何か問題が起こったら、と想像できる感性を育て、みずからの暮らしを守るために行動に移す勇気を培う。衣食住のうちで、とくに今問題となっている「住生活と環境」をひとつの柱に、現場の声に耳を傾けさせる。マスコミには載らない情報に触れることで、さまざまなマインドコントロールを越えて、自分の生活そのものを再点検しながら深く考え、足下から暮らしと環境を変えていくきっかけをつかむ生活者を育てる。								
到達目標 1)環境問題をめぐってなぜメディアが真実を語れないのかその背景を理解する。2)最高の学習の場が地域の暮らしの現場であることを実感する。3)問題が根本的に解決するまでの自らの暮らしを守る方法を実践例によって学ぶ。				成績評価の方法と基準 出席と授業中の発言による「参加点」。自由なテーマの小レポート1回以上と期末大レポート1回。大レポートのタイトルは授業中に指示する。				
学習目標				評価項目と割合				
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) なぜメディアが真実を語れないのかを理解する	20	10	0	10	0	0	0	0
(2) 最高の学習の場は「地域の現場」だと実感する	50	10	0	10	5	0	25	0
(3) 自らの暮らしを変える実践にチャレンジする	20	0	0	20	0	0	0	0
(4) 実践にもとづいて希望を語る説得力を身につける	10	0	0	0	0	5	5	0
授業の項目と内容				自主学習課題				
(1) 4/16)自分でたしかめなければ満足しない ドキュメンタリー作家西山正啓さんに学ぶ								
いまま枯葉剤のひどい影響が残っているというベトナムでは残留ダイオキシン濃度が非常に高い。しかし帰国して現在の日本の方が濃度が高いと知った時のショック。				隠された真実があらかになったとき、どのような影響があるか、最近のさまざまな偽装などの問題を材料に考えてみよう。				
(2) 4/23)消えた鎮守の森で 生活者としてできることを求める福田雅美さんの声								
静かな住宅地で、鎮守の森の山をまるごと削る大規模工事。埃と振動に苦しむ年月のあと、そこに米軍の住宅がくると知った時、岩国の住民たちは動き始めた。				国レベルで必要とされることと、自分の家のすぐ前で起こってほしくないことが矛盾する具体例を考えて、そのおりあいをどうつけるアイデアをだしてみよう。				
(3) 5/7)戦争は環境破壊に関係ない？ 田中優さんのお話し								
私たちがのお金は、環境破壊＝戦争をつくるために使われている。足下から平和をつくり、環境を守ることができる具体的なしくみについて学ぶ。				APバンク、グラミン銀行、地域通貨など、もうひとつの経済の可能性について、先進的な事例に学ぶ。				
(4) 5/14)グローバルからローカルへ 半農半Xの楽しみを生きる大下充億さん								
第三世界での援助の現場で自然の循環の中でいきる人々に出会い、山口の地で自給的な暮らしをしながら、本物をお菓子を売るという仕事に取り組んでいる人の物語。				あらかじめ、 http://ankei.jp/yuji/?n=297 を読んでみよう。				
(5) 5/21)山で暮らして海とつながる 車椅子林業家白松博之さんの活躍								
障害をもったからこそ見えてきた世界と自然の循環にそった暮らしを求める「あったか村」そこでのさまざまな取り組み。				「あったか村」についてインターネットで調べてみる。 http://www.haginet.ne.jp/users/poco-a-poco/				
(6) 5/28)スローな暮らし・スローな食べ物・スローな観光をめざす白松さんの取り組み								

いなかには都市が忘れてしまった大切なものがある。それを見つけてきて、その知恵をみにつけよう。	http://www.haginet.ne.jp/users/kikori/ で農家民宿とは何かをみてみよう。
(7) 6/4)環境問題に取り組むデンマークの人々を西山正啓監督のドキュメンタリーで学ぶ	
本当に環境を大事にしようと思えば、みんなが決意したら、国の姿はどのように変わるか。ヨーロッパの中でも最先端のとりくみを展開してきたデンマークに学ぶ。	温暖化対策についてのヨーロッパ・アメリカ・日本の政策をくらべてみよう。
(8) 6/11)スペイン・ナバラの農家民宿と自然エネルギー	
山口県と姉妹提携しているスペインのナバラ州では、グリーン・エネルギーとグリーン・ツーリズムの取り組みが盛んで、元気がもらえる。	『続やまぐちは日本一』の関連する章を読む。http://ankei.jp/takako/も参照。
(9) 6/18)世界の森を守る人々との交流	
どのような困難の中でも、希望を失わず自然との共存に生きる人々の生き様に学ぶ。	http://ankei.jp/yuji/?n=105 を読む。
(10) 6/25)瀬戸内海がよみがえる日	
瀬戸内海最高の海と原発予定地の自然が破壊されていく現状の報告。長島の自然のこれまでの取り組みをとこれからについて。安溪貴子さん賛助出演。	瀬戸内海の片隅にたかろうじて生き残った太古の生物のひとつの気持ちになって、人間たちの贈るメッセージを100文字でコミュニケーションボードに書いてみよう。
(11) 7/2)大規模開発につける薬はあるか 安溪遊地担当	
日本生態学会で3度「大規模開発につける薬」というシンポジウムを主催した。良薬は口に苦し。しかし、薬がなければわれわれの暮らしが滅びるのである	自分が書いてみたいと思う最終レポートについて、仮の主題を考え、どのような資料が利用できそうか考えてみる。
(12) 7/9)安心安全の暮らしのために(1) 安溪遊地担当	
それはほんとうに安心して食べられるものか、例えば10週間も腐らないポテトチップス。例えば半年もかびないレモン。例えば……。食べ物から暮らしを見直すための提案。	最終レポートの「目標規定文」を100字程度で書き、文中での引用を予定している経験・本・雑誌・新聞・インターネットなどを具体的に列挙する。
(13) 7/16)安心安全の暮らしのために(2) 安溪遊地担当	
いま何が一番危機なのか。いま何をしなければならぬのか。	この日までにレポートの下書きを作成して、安溪にメールで送信した受講生は、コメントを取り入れて改訂版を作成し、再提出することを認める。
(14) 7/23)いま足下からできること 小さな森に県産材で建てた価格破壊住宅で	
安溪遊地担当。県産材の産直で建てた価格破壊の自然住宅づくりと「第三種兼業農家」としての四季の暮らし。そして、そこに突然起こったごみ処分場騒動の顛末。	自分の暮らしを変えるには、よく鼻とほんの少しの勇気が必要なのかもしれません。きっかけはささいなことでも、やってみましょう。
(15) 7/30)だまされないために 知るは難く行は易し(孫文)	
ありもしないことを恐れたり、できもしないことを信じているから不安になるのです。いろいろな情報の海を泳ぎ切る力をつけましょう。	それには、きちんとしたものを感謝していただき、丈夫な頭と賢い体をもって、軽やかに動いていくことが大切だと思います。学生による授業評価を忘れずに！
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト。安溪遊地編、2006『続やまぐちは日本一～女たちの挑戦～』弦書房。この本を入口の一つとして、本当の教材は地域とその環境であることに気づいてほしい。	地球環境問題とされるものには、マインドコントロールな要素があることに気づいていると判断されれば、「可」以上。環境問題の解決には、地域において具体的に取り組めることが多いことを理解できたら「良」以上。身近な環境問題の解決を希望をもって語る姿勢があれば、「優」以上。さらに、身近な実践を通して、地球環境問題の解決に結びつくような提案ができれば、「秀」となります。
受講生へのメッセージ	
きっとまだ間に合う。できるところから始めてみましょう。足下から実践している方々をお迎えするその現場を訪ねるチャンスがあったら、気軽に動いてみましょう。	